



チャレンジ！一歩前へ

郡山市立橋小学校
学校だより No.51
令和5年12月6日
文責：校長 酒井 健

◇「年末年始の交通事故防止 県民総ぐるみ運動」が始まります。

毎年、年末年始に行われている「年末年始の交通事故防止 県民総ぐるみ運動」が間もなく始まります。今年度は、令和5年12月10日(日)～令和6年1月7日(日)までの29日間となっています。今年度の運動の重点は次の5点です。保護者の皆様方も、子どもたちも、事故などに遭わない、起こさないよう皆さんで注意していきましょう。

【令和5年度 運動の重点】

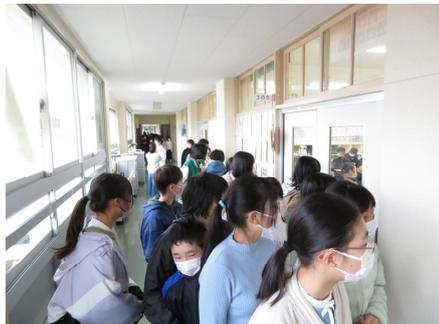
- ① 道路横断中の交通事故防止(特に、高齢歩行者の保護の推進)
 - ② 夕暮れ時や夜間の交通事故防止 … PM4(早めのライトオン)
 - ③ 飲酒運転の根絶
 - ④ 自転車利用時のヘルメット着用と交通ルールの遵守
 - ⑤ すべての座席のシートベルトとチャイルドシートの正しい着用の徹底
- ※これからの季節、凍結など道路状況も悪くなります。安全運転を心がけましょう。



また、本日から「教育相談」がスタートしました。子どもたちの下校時刻は13時15分となっており、通常よりも早い下校となります。家庭での過ごし方などにつきましては各学年・学級で指導をしましたが、交通事故などに遭わないよう、ご家庭においても子どもたちへの言葉かけをよろしくお願いいたします。

◇郡山市立郡山第三中学校の体験入学がありました。

昨日、12月5日(火)には、郡山第三中学校において体験入学が行われ、橋小学校の6年生も参加してきました。郡山三中へは、橋小学校と桜小学校の子どもたちが入学します。中学校の授業を参観させていただいたり、中学校生活についてお話を聞いたり、また、部活動の紹介もさせていただいたりしました。ちょっぴり緊張気味の子どもたちでしたが、郡山三中の先生や生徒さんの話に真剣に耳を傾け、目を輝かせていました。中学校へ進学する夢と希望と期待を膨らませることができた体験入学でした。



校長のひとりごと

突然ではありますが、東日本大震災の際の、私にとって感銘を受けたお話を2つ紹介します。今から12年前、東日本大震災が発生し、さらに福島県は原発事故という未曾有の震災に見舞われました。様々な制限や不安や恐怖がある中で、子どもたちは健気に学校に登校していました。その頃、私は、郡山市内のある小学校に勤務しており、3年生から6年生までの音楽の授業を受け持っていました。

震災から2ヶ月ほどたったある日、3年生の音楽の授業で「ビリーブ」を歌った時です。「♪たとえば君が傷ついて♪くじけそうになった時は♪必ずぼくがそばにいて♪ささえてあげるよ♪その肩を・・・」歌い終わると1人の女の子が私のところに来て、こんなことを言ったのです。「先生、あのね、この歌を震災で避難している人たちの前で、歌ってあげたい。元気づけてあげたい」その子の目には涙が溢れていました。私は、なんて優しい気持ちなんだろう、なんて柔らかな心なんだろうと、子どもたちの前ではありましたが、涙してしまいました。

もう一つは、ある心療内科の医師の言葉です。「人はあまりに大きな心の傷を受けた場合、自身の心を守るために、心にふたをするときがあります。そのときは、無理に感情を表出させません。治すというより寄り添います。黙ってそばにいます。言葉がこぼれおちるまで・・・」

2つのお話に共通するのは『優しさ』。この『優しさ』が人と人との心をつなげるのですね。